

特別支援学級 実践事例

校種(学級の種別)	小学校 (知的障がい特別支援学級)	本事例の教科等名	自立活動	
<p>在籍児童生徒の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R児 4年生 ・友達とのかかわりに苦手さがあり、かまってほしい人をつねったり、叩いたり、ひっかいたりする。 ・自分の思いを言葉に出すことが苦手で、嫌なことを言われても、黙っていたり、蹴ったりと言葉で自分の気持ちを伝えようとしないので、相手にも自分の気持ちが伝わりにくく、教師が間に入って代弁することが多い。 ・言われても言い返せず我慢していることも多いので、嫌な気持ちが残りやすい。 ・WISC - IVの検査では、処理速度が特に低く、動作や言葉もゆっくりとしている。そのため、今まで同級生から「早くして」と催促されて言い返せず、嫌な経験をしたことも多いようである。 	<p>目標 ・ 指導内容</p>	<p>SSTで自分の気持ちや他者の気持ちを考えたり、ロールプレイングで声を出したりすることによって、友達との関わりで自分の気持ちを声に出すことができる。</p> <p>3.人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 (3)自己の理解と行動の調整に関すること。</p>	
<p>指導の経過・工夫点 ・子どもの変容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めに、ソーシャルスキルトレーニングをする上で、苦手意識が出ないように、ゲーム感覚で取り入れられるよう、ソーシャルスキルトレーニングすごろくを取り入れた。(SSTボードゲーム「なかよしチャレンジ」、監修：本田恵子、出版社：クリエイションアカデミー) <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム感覚ででき、場面設定が学校の中で起こる問題なので、自分事として考えやすかった。 ・自分の考えが言葉に表すことが難しい子どもだが、3択があることで、自分の答えに近いものを選ぶことができた。 ・すごろくゲームなので、楽しんでいきいきと取り組む姿が見られた。SSTの時間が児童にとって楽しみな時間として位置づけられていた。 ・選択肢を選ぶときに「我慢する」を選ぶことがほとんどであった。 2. SSTに慣れたり、楽しさや意欲が高くなったりした状態で、ワークシート型のソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。(クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法、著者：岩澤一美、出版社：ナツメ社) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを友達に発表して声に出させるようにした。 ・必ずロールプレイングをして考えたことを言葉に音声として出させるようにした。 <p>→少しずつ声を出す習慣が付き、声量が大きくなってきた。 校長からも「自ら元気のよい声で挨拶するようになった。」と話があった。</p> 			
<p>成果と課題 ・今後の方向</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始め、遊び感覚でSSTを取り入れたことによって意欲が高い状態が続いており、支援学級の中では自分の気持ちを言い表すことに抵抗感が少しずつなくなってきた。表情がよく、いきいきと取り組む姿が見られる。 ・ワークシートは書くところがたくさんあるが、漫画風に吹き出しを書くことやイラストが多いことにより、R児はわかりやすく取り組むことができている。 		<p>出典：岩澤一美著 クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法 ナツメ社</p>	

【課題】

・ワークシートでのロールプレイングでは、「〇〇のように言いたい」という気持ちが見られるが、SSTボードゲームでは依然として「我慢する」を選ぶことがほとんどで、頭で理解していることと、自分の立場とのギャップがまだ大きい。その溝を埋める手立てを模索中である。